

都市再生整備計画

た く ま ち ょ う し ゃ し ゅ う へ ん
詫間庁舎周辺地区

か が わ み と よ
香川県 三豊市

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)ー②

都道府県名	香川県	市町村名	みんよし 三豊市	地区名	たろまろおれやうへん 詫間庁舎周辺地区	面積	10.0	ha
計画期間	令和	6	年度	～	令和	8	年度	
					交付期間	令和	6	年度
						～	令和	8
							年度	

目標

大目標：活気あふれる市民を軸として、いきいき高揚するまちの実現

目標1：多世代が集い、緩やかにつながる開かれたコミュニティの創造

目標2：自然と文化が共存する空間で、人の交流と回遊が生み出すにぎわい

目標3：持続するまちの要となる市民活動の活性化

目標設定の根拠

都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

平成18年1月に7町の対等合併により、北は瀬戸内海に面した沿岸部、南は讃岐山脈から徳島との県境まで広がる県内2番目の面積規模の三豊市が誕生した。

7町それぞれが個性ある歴史文化や地域資源を有するまちであることから、本市の最上位計画である「三豊市第2次総合計画」（平成30年12月策定）においては、画一的な都市形成ではなく、各地域の特色を生かした三豊市をめざすとしている。

都市形成においては、公的不動産や行政機能が大きな影響力を持つことから、新たな公共施設を整備する際には、他の都市機能や既存公共施設等とのつながりを踏まえて機能選択や配置を行う。

これに加え、地域の歴史文化や自然環境と調和するとともに、あらゆる世代を対象にニーズをとらえ、利用者から長く親しまれる施設・空間づくりをめざす。

また、「三豊市公共施設等総合管理計画」（平成29年3月策定、令和4年5月改訂）に基づく、ライフサイクルコストの試算による将来的な財政負担を見据えた機能の集約・複合化はもとより、いわゆる「ハコモノ」ではなく「場」の提供として、市民等の自発的な活動を促進するものである。

まちづくりの経緯及び現況

本市北部に位置する旧詫間町は、かつては塩田のまちとして、現在は工業都市として、産業が地域に活力をもたらしてきた。

さらには、桜の名所である紫雲出山や瀬戸内国際芸術祭の舞台となる栗島に代表される豊富な観光資源を有しており、急速な観光需要の高まりから、観光産業が盛り上がりを見せるとともに地域を越えた人の流れが生まれている。

整備地区周辺には、支所等の行政機能のほか文化・スポーツ施設、金融機関などが立ち並ぶほか、スーパーや飲食店などの商業施設、JR詫間駅が立地し、令和4年には地域医療の要である市民病院が新たに整備されるなど、多様な都市機能が集積している。

一方では、人口構造の変化や地域経済の縮小により、市全域におけるにぎわいが失われつつあり、さらなる人口流出や経済の衰退が懸念されている。

また、合併以前に整備された公共施設の老朽化が進む中、当該地区においても、支所機能や子育て支援機能を持つ庁舎や、住民の生きがいや健康づくりの場として利用されてきたコミュニティ施設が更新時期を迎えている。

「三豊市詫間庁舎周辺整備基本構想」（令和4年2月策定）では、施設の更新に合わせて、コストマネジメントを前提とした機能集約や規模の見直しを行うとともに、地域の歴史文化や自然環境との調和、その他都市機能とのつながりのもと、人々の積極的な活動や交流を実現するエリア開発を行うこととしている。

課題

・エリア内に多くの都市機能が立地しているものの、それぞれがつながることによる回遊性が確保されていない。

・市民活動が不可視的であり、多様な年代が交流する場が少ない。

・合併以前に整備された公共施設が更新時期を迎え、ライフサイクルコストを最小限に抑えつつ、市民ニーズに合わせた機能へと見直す必要がある。

・シビックプライドの醸成においては、地域で守られてきた歴史文化や自然との調和が求められている。

将来ビジョン（中長期）

【三豊市第2次総合計画】

・一極集中型のコンパクトシティをめざすのではなく、各地域の特性に応じた集中的な事業投資のもと、地域の歴史分野や資源を最大限に生かす三豊ならではのまちづくりを行う。

・公的施設、文化施設等の機能が集まる詫間庁舎周辺の市街地エリアについては、様々な機能の集約と複合化を進めるとともに、新たに公民連携による誘導を促し、市街地エリアのマネジメントを進める。

【三豊市立地適正化計画】

・7町合併から10数年が経過し、「One MIOTO」の実現に向けて均等・平等からの脱却と、役割分担や地域特性に応じた集中投資を行い、土地利用のマネジメントを積極的に進める。

・「にぎわい」「交通」「観光」「文化」「子育て」「行政サービス」など高次の機能を有し、多様な役割を果たす『都市拠点』として詫間庁舎周辺を位置づけ、生活利便性や交通利便性を向上させるとともに、求められる役割に応じた高次の都市機能を集積し、都市の魅力を市内外に発信する求心力の高い区域を形成する。

【三豊市詫間庁舎周辺整備基本構想】

・地域のポテンシャルを最大限生かしながら、市民が集い交流する地域コミュニティの形成と、地域を越えた人の流れと交流によるにぎわいを創造する。

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

整備地区には、支所や子育て支援拠点のほか、市民活動の場となるコミュニティ機能や文化施設など、市内の他地域にはない多様な都市機能が集積していることから、本市立地適正化計画においては「都市拠点」の一つに位置づけられている。

また、整備地区周辺には、みとよ市民病院やJR詫間駅が立地するとともに、商業施設も充実しており、さらには沿岸部・島しょ部の豊富な地域資源は多くの観光客を呼び込み、新たなにぎわいが地域に活気をもたらしている。

本市のまちづくりにおける市民アンケートやワークショップの結果においても、豊かな自然と都市的な便利さをともに享受できることが強みであるとの意識が明らかになっている。

一方では、「三豊市詫間庁舎周辺整備基本構想」の策定にあたり実施した市民アンケートでは、整備地区内における活発な市民活動や魅力的な地域資源に対して高いポテンシャルを実感しながらも、それぞれが分散・独立し、非顕在であることが課題であるとの意見が集まっており、活動の可視化や面的な都市デザインが求められている。

市全域に人口減少の波が押し寄せる中にあるとは、ゆとりある暮らしを実現しながらも高次の都市機能が備わり、一定規模の人口集積や地域外からの高い関心を集める整備地区を本市の中心市街地として、さらに高い生活利便性を確保するとともに、自然と都市が同居し、人々、機能同志のつながりが実感できるまちの創造に向けて整備を進めていく。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

なし

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
コミュニティセンター部門の稼働率	%／年	施設管理者によるコミュニティセンター部門（貸館）の利用状況の年次集計（1日9時間365日の稼働として計算）	市民による文化芸術等における活動の場として、適正規模であり、積極的な利用が行われている。	13.5%／年	平成30年度	60.0%／年	令和8年度
親水広場でのイベント開催回数	回／年	施設管理者による利用申請受理件数の年次集計	市内外の人が集い、交流する場として、広場が利用されている。	0回／年	令和5年度	4回／年	令和8年度
子育て世代活動支援センターの利用者数	人／年	運営事業受託者による利用者の年次集計	子育て世代に対する支援の場が提供されており、積極的な利用が行われている。	4,627人／年	令和4年度	6,000人／年	令和8年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【多世代が集い、緩やかにつながる開かれたコミュニティの創造】 ・支所、子育て、コミュニティセンターの機能集約による複合施設を整備し、それぞれの活動が可視化されることで相互理解を深め、交流の機会を創出する。 ・親水広場や屋外テラスを整備し、多世代や地域内外の人が集い、交流する開かれた空間を創造する。		【基幹事業】 ・(高次都市施設)市民センター詫間(仮称)整備事業 ・(地域生活基盤施設)屋外テラス整備事業 ・(地域生活基盤施設)親水広場・駐車場整備事業
	【自然と文化が共存する空間で、人の交流と回遊が生み出すにぎわい】 ・地域の歴史文化や自然環境と親和性が高く、利用者に親しまれる施設・屋外空間づくりを行う。 ・市民センター詫間(仮称)や親水広場、既設の文化会館やたくまポートメモリアルパーク等の点在する各機能につながりを持たせ、回遊性を確保する。 ・市民センター詫間(仮称)整備に伴う進入路確保として、歩道の整備を行う。	【基幹事業】 ・(高次都市施設)市民センター詫間(仮称)整備事業 ・(地域生活基盤施設)屋外テラス整備事業 ・(地域生活基盤施設)親水広場・駐車場整備事業 ・(道路)歩道整備事業
	【持続するまちの要となる市民活動の活性化】 ・市民ニーズに沿ったコミュニティ機能を整備し、自主的な市民活動の場を提供する。 ・健やかな子どもの成長や保護者の社会参画に対するサポートの提供を行う場として、子育て世代活動支援センターを整備する。 ・市民等による多様な活用をフレキシブルに受け入れる親水広場や屋外テラス等を整備する。	【基幹事業】 ・(高次都市施設)市民センター詫間(仮称)整備事業 ・(地域生活基盤施設)屋外テラス整備事業 ・(地域生活基盤施設)親水広場・駐車場整備事業
その他		【提案事業】 ・(地域創造支援事業)親水広場活用促進事業
		【関連事業】 ・三豊市文化会館(マリンウェーブ)ホール等大規模改修工事
【関連事業】		
・整備地区内に立地する三豊市文化会館(マリンウェーブ)において、ホール等の大規模改修工事を行い、コミュニティセンターと併せた活用によって、文化発信拠点としての機能強化をめざす。		

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

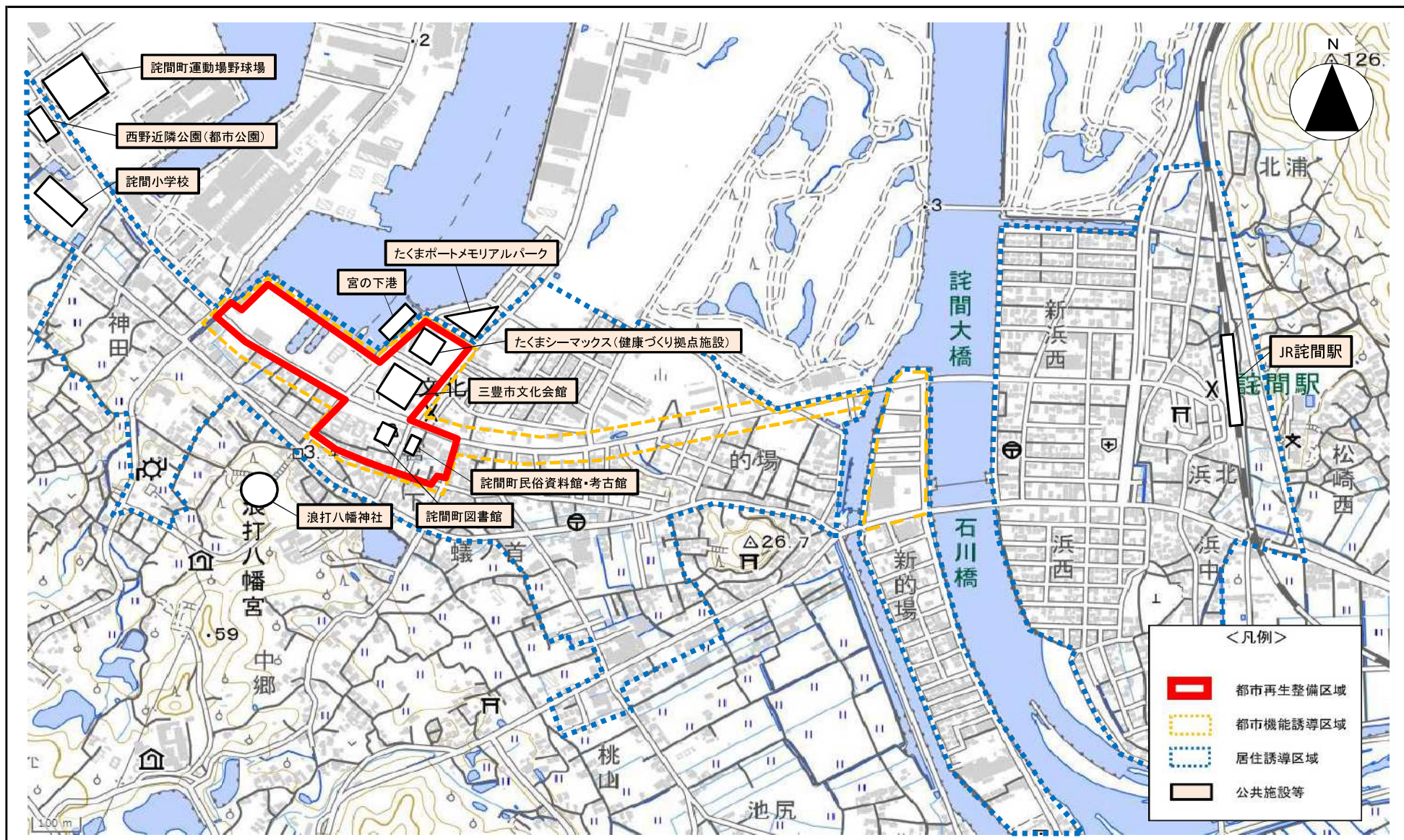
...A

3...B

0	0	...C
合計(A+B+C)	966.6	

0829.7

詫間庁舎周辺地区（香川県三豊市）	面積	10.0	ha	区域	三豊市詫間町詫間経面の一部、宮ノ下の一部、松下の一部
------------------	----	------	----	----	----------------------------



たくま みとよ
 詫間庁舎周辺地区(香川県三豊市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標: 活気あふれる市民を軸として、いきいき高揚するまちの実現 目標1: 多世代が集い、緩やかにつながる開かれたコミュニティの創造 目標2: 自然と文化が共存する空間で、人の交流と回遊が生み出すにぎわい 目標3: 持続するまちの要となる市民活動の活性化	代表的な指標	コミュニティセンター部門の稼働率(％/年)	13.5%	(H30年度) →	60.0%	(R8年度)
			親水広場でのイベント開催回数(回/年)	0回	(R5年度) →	4回	(R8年度)
			子育て世代活動支援センターの利用者数(人/年)	4,627人	(R4年度) →	6,000人	(R8年度)

